奄美群島与論島の魚類多様性調査

本村浩之（総合研究博物館）

鹿児島大学総合研究博物館では、鹿児島県魚類多様性調査プロジェクトの一環として２年に１島のペースで島嶼海域の魚類相調査を行っています。2008～2009年は屋久島の調査を行い（本村，2009）、同島から標本に基づく初記録374種を含む951種を報告しました（Motomura and Matsuura, 2010）。2010～2011年は三島村の硫黄島と竹島の調査を行い（本村，2011）、2013年３月に同島の魚類図鑑を出版しました（本村ほか，2013）。イトヒキコハクハナダイ *Pseudanthias rubrolineatus*（Motomura et al., 2010）やヒマワリスズメダイ *Chromisanalis*（岩坪・本村，2010）、ヒスイスズメダイ *Chromis earina*（西山ほか，2012a）など硫黄島・竹島における調査で得られた標本に基づき新標準和名が命名された種もいます。大隅諸島の魚類相を解明するため、上記３島に加え、種子島の調査も継続して行っています。

図１．浅場で群れるテンジクダイ科魚類.

図２．曳網調査１.

図３．曳網調査２.

2011～2012年には奄美群島最南端の与論島で調査を行いました。「与論島魚類多様性調査」は鹿児島大学総合研究博物館が主導する「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」を主軸に、国立科学博物館の「黒潮プロジェクト（浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る）」、鹿児島大学の「奄美群島における生物多様性プロジェクト」、科研課題研究の「黒潮の流路変動と屋久島周辺の魚類相：海中の見えざる障壁を探る」などの調査の一環として行われました。

「与論島魚類多様性調査」は、2011年８月から2012年11月までの５回（2011年８月１～24日、10月31日～11月９日、2012年４月14～24日、８月11～24日、10月20日～11月１日）、合計約70日間行われました。参加者は筆者と鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生を中心に、同研究室の卒業生、国立科学博物館、高知大学、三重大学、神奈川県立生命の星・地球博物館、広島大学などの研究者と学生合わせて延べ50名です。

鹿児島大学与論活性化センターを拠点とし、与論島内の淡水・汽水域の調査や沿岸性魚類の調査を行いました。淡水・汽水域の魚類調査の成果は2012年に報告されました（松沼ほか, 2012）。沿岸性魚類（図１）の調査は、曳網（図２－５）、スクーバダイビング（手網・追込網など；図４－６）、釣り（図６－７）など様々な方法で行い、深海性あるいは沖合に生息する魚類については深海船釣り（図８）や地元の市場調査（図９）によって標本を確保しました。朝８時から市場調査に行き、その後、ダイビング調査などを行う毎日です。夕方から調理班（図10）と標本処理班に分かれて作業をし、毎日日付が変わるまで標本処理を行いました（図11－15）。撮影され

図４．網を海底に設置中.

図５．水深12m付近で作業中.

図６．漁港で魚釣り.

図７．釣りながら物思いにふけることも.

図８．水深200m以深の深海釣り.

図９．朝の魚市場.

図10．調査中は毎日自炊.

図11. 採集調査を楽しんだ後は標本処理作業.

図12．深夜、疲れがピークを越え、ハイテンションに.

図13．新４年生も試行錯誤中.

図14．標本の撮影中.

図15．大型標本の半身は食用に.

図16．処理中の標本1.

図17．処理中の標本2.

図18．標準和名ヨロンスズメダイの基準となった標本．

図19．ヨロンスズメダイの水中写真（原崎　森氏撮影）．

た標本写真は3500枚を超えます。

魚類相調査のため、ごく普通にみられる魚を網羅する必要があり、可能な限り漏れが少なくなるよう多くの個体を採集します。さらに、同じ種であっても成長段階が異なる個体（幼魚～成魚）、雌雄なども揃えなければならず、結果的に膨大な数の標本が採集・記録されます。それらの標本を正確に同定するには、文献や国内外から採集された標本との比較検討作業が必要です。まだ出現種数の集計はでていませんが、いくつか興味深い種もみつかっています。その内の一つヨロンスズメダイ*Stegastes insularis*（図18－19）は、今回の調査で得られた標本に基づいて新しい標準和名が提唱されました（西山ほか，2012b）。今後、同定作業が進むにつれ、さらに多くの未記載種や日本未記録種の存在が明らかになってくると期待されます。来年度中には与論島の魚類図鑑（フィールドガイド）を出版する予定です。

最後に、調査にご協力下さったヨロンダイビングサービスの竹下敏夫氏、鹿児島大学与論活性化センターの高橋　肇氏、与論町漁業協同組合の酒匂兼峰氏、与論町町役場の龍野勝志氏、与論町商工会の岩村中里氏を始めとする与論町のみなさまに感謝します。

引用文献

岩坪洸樹・本村浩之．2010．スズメダイ科魚類 *Chromis analis* ヒマワリスズメダイ（新称）と *C. albicauda* コガネスズメダイの日本における記録と標準和名．生物地理学会会報，65：57-64.

松沼瑞樹・龍野勝志・本村浩之．2012．鹿児島県与論島で採集された汽水・淡水産魚類．Nature of Kagoshima, 38：109-114.

本村浩之．2009．屋久島の魚類相調査．鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター，（21）：10-11.

本村浩之．2011．鹿児島県硫黄島と竹島の魚類多様性調査．鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター，（28）：1-3.

本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一．2013．鹿児島県三島村－硫黄島と竹島の魚類．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島市・国立科学博物館，つくば市．390pp.

Motomura, H., S. Dewa, K. Furuta and H. Senou. 2010. Description of *Pseudanthias rubrolineatus* (Serranidae: Anthiinae) collected from Take-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Biogeography, 12: 119-125.

Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2010. Fishes of Yaku-shima Island . A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.

西山　肇・出羽慎一・千葉　悟・本村浩之．2012a．鹿児島県硫黄島から採集された日本初記録のスズメダイ科魚類ヒスイスズメダイ（新称）*Chromis earina*．魚類学雑誌，59（1）：61-67.

西山　肇・渡井幹雄・瀬能　宏・本村浩之．2012b. 鹿児島県与論島から採集されたスズメダイ科魚類 *Stegastes insularis* ヨロンスズメダイ（新称）とその分布特性．魚類学雑誌，59（2）：155-162.